

〔第13回〕

NCGG-R1 研究発表会

National Center for Geriatrics and Gerontology, Research Institute

免疫系から見た基礎老化研究の必要性

老化機構研究部
丸山 光生 部長

2016年10月11日(火) 16時30分～
第1研究棟2階大会議室

高齢者、あるいは高齢社会の定義を再検討しようとする我が国に限らず、欧米を中心とした多くの先進国の高齢化が近年著しい。健康長寿の延伸を目指す意識からも「老化が引き金となって顕在化する疾患」のメカニズムを探究する研究とは別に加齢とともに「老化していく過程」のメカニズムの解明に向けた研究が分子、細胞レベルを中心に基礎老化研究として注目されている。我々は、加齢に伴う生体機能の低下の一つとして、免疫機能の低下機構を基礎老化研究の標的としてその解明を目指している。具体的に今回は、分子(遺伝子)レベルでは老化関連免疫組織特異的GDP/GTP交換因子であるZizimin 2(Dock11)遺伝子が関与する腹腔内B-1 B細胞を中心とした免疫系の加齢変化解析についての最近の知見を報告する。さらに細胞レベルでは獲得免疫系における老化したリンパ球細胞の排除に伴う免疫老化に見られる変化、とりわけ高齢者が苦しむ感染症に対する免疫系の賦活化を目指す新たな試みについて紹介する。また、こうした基礎老化研究を通して健康長寿社会の原動力となる健康老化に関しても今後の展開を考察したい。

座長：庵原 耕一郎